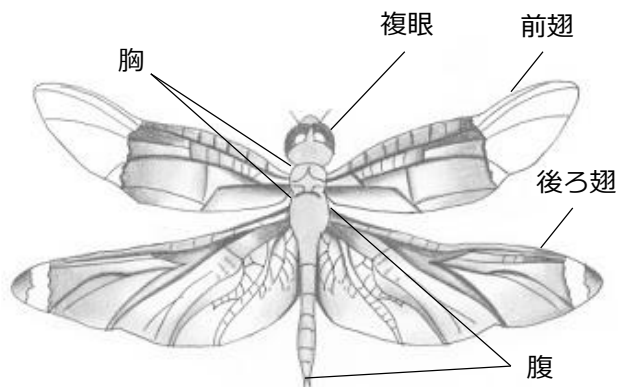




とねり自然図鑑

動物、昆虫や花などいろいろな自然の写真を「フォトクラブメビウス」の会員方にご協力いただき、毎月発行しております。写真にちなんだ「へえ～」という情報もお楽しみに。

【撮影した井上利成さんのつぶやき】 ひらひらと舞っていたので、蝶かと思ったらまさかのトンボでした。光沢ある青色の翅はとてもキレイで逃げられてしまわないようにそっとシャッターを切りました。



名称：チョウトンボ
(別名ヒコーキトンボ)
学名：Rhyothemis fuliginosa
体長：35mm
開張：75mm
分布：本州、四国、九州
時期：6～9月
生態：不完全変態(卵-幼虫-成虫)
主食：蚊、蛾、ハエ、チョウ
天敵：カエル

【チョウなの？トンボなの？】

幻想的な世にも美しいチョウ…ではなく、トンボ！？

〇名前を聞いて思わず、チョウなの？トンボなの？とお思いになる方も多いと思います。どうしてこんな名前になってしまったのか、その由来は…1つは飛び方にあります。

トンボというと高速で飛行するのを思い出す方が多いかもしれませんが、このチョウトンボはひらひらと、まるでチョウのように飛びます。しかも、翅に色がついているので遠目ではチョウが飛んでいるようにも見えます。翅が大きいことも、チョウのように見える要因かもしれません。

2つめは翅が柔らかいということです。トンボの翅はチョウの翅に比べて硬く、しっかりしたものです。これはトンボの方が翅脈(翅の構造を支える線状のもの)が緻密にあるためです。チョウの翅脈はトンボに比べると非常に単純なものです。ところが不思議なことにチョウトンボの翅はチョウ

ウのような柔らかさなのです。普通のトンボなら少々乱暴に扱っても翅が折れたりもしないのですが、このチョウトンボの場合はそうもいきません。つかまえたら慎重に扱しましょう。

ひらひらと飛び、くっきりとした模様と光沢ある翅から、日本一美しいトンボと言われています。しかし、チョウトンボは網で捕獲するとすぐに死んでしまうと言われているほど、弱い虫です。残念なことに日本のチョウトンボは農薬汚染により近年著しく減少してしまい、地方によっては準絶滅危惧種に分類されていることもあります。少しずつ環境が改善されて、きれいな水辺が戻り、チョウトンボがいつでも見られるほど増えると良いですね。

そのためには、一人一人が環境について考えながら生活をしていかなければいけませんね。

「舎人図書館にある参考資料の一部を紹介↓

- ！尾園暁・川島逸郎・二橋亮 『日本のトンボ』 文一総合出版
- ！石井誠 『公園で探せる昆虫図鑑』 誠文堂新光社
- ！野村圭佑 『下町によみがえったトンボの楽園』 大日本図書

毎月集めて、舎人地域学習センター・図書館のオリジナル図鑑をつくろう！